

経営比較分析表／団体全体（平成30年度決算）

福井県 若狭町

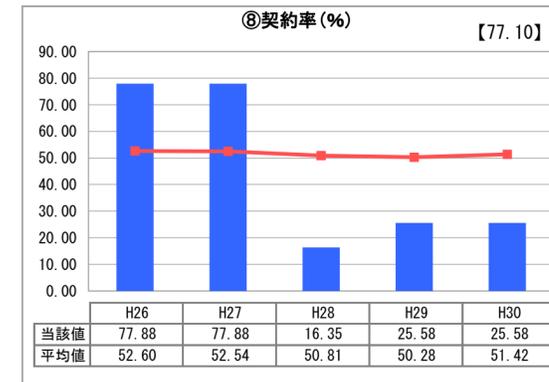
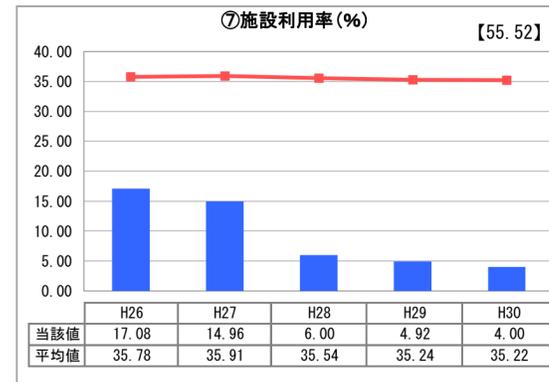
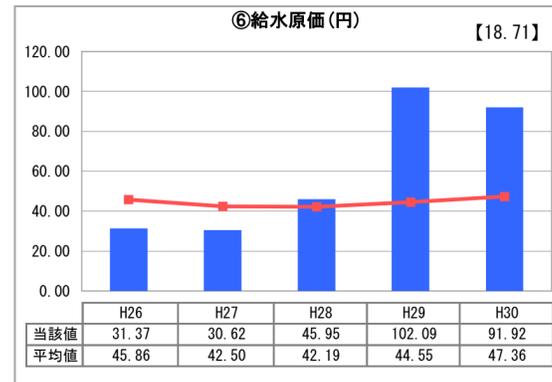
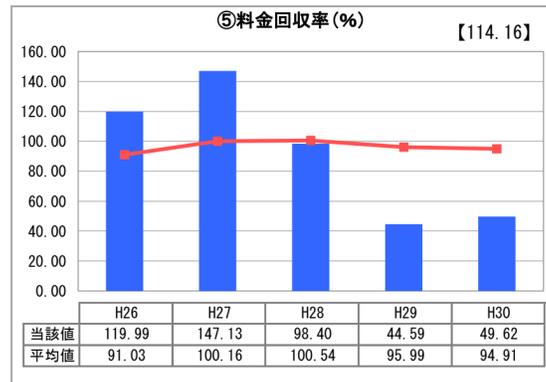
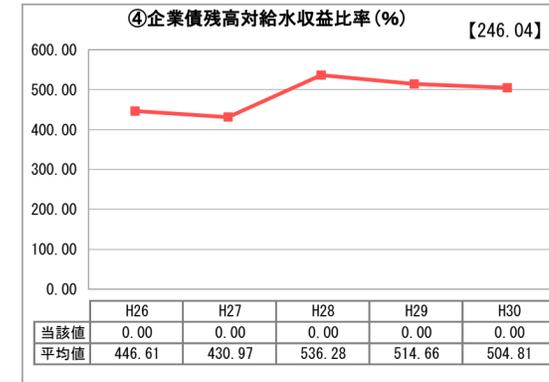
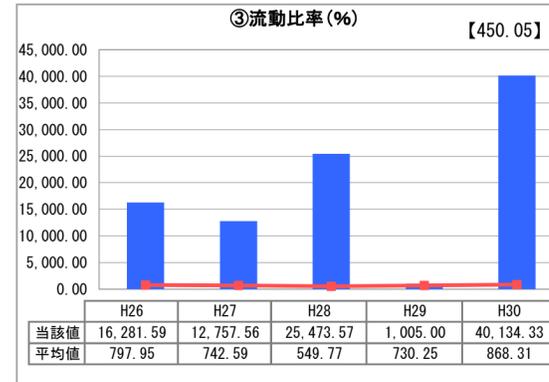
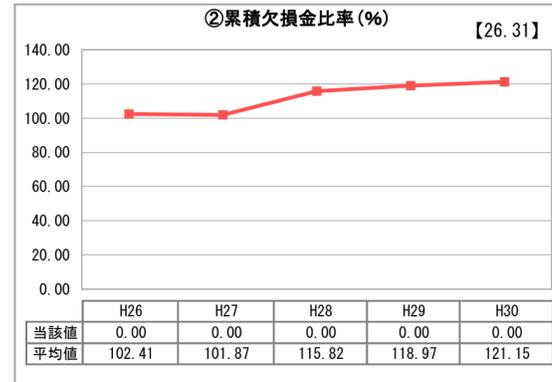
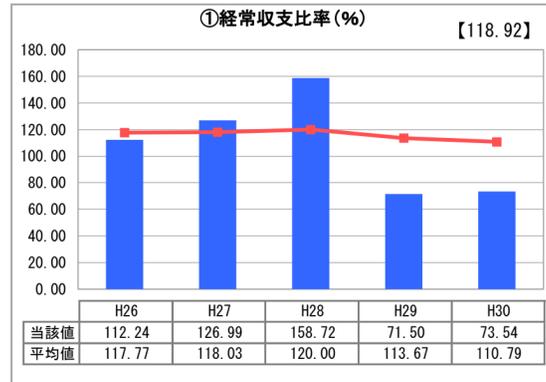
【事業概要】

業務名 法適用	業種名 工業用水道事業	現在配水能力(合計)(m ³ /日) 2,600	類似団体区分 極小規模	施設数 1	1日平均配水量(m ³) 104
資金不足比率(%) -	自己資本構成比率(%) 95.7	給水先事業所数 7	契約水量(m ³ /日) 665	管理者の情報 非設置	

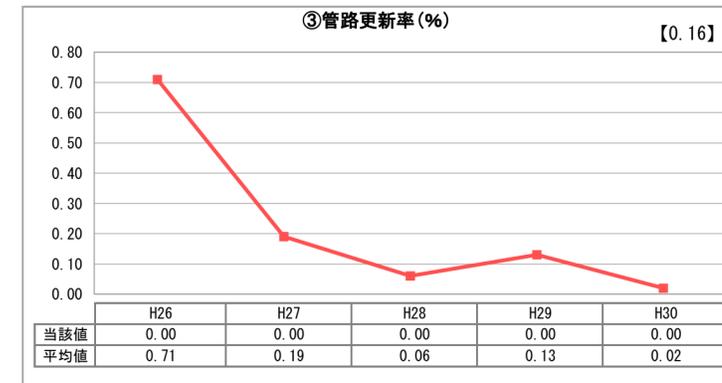
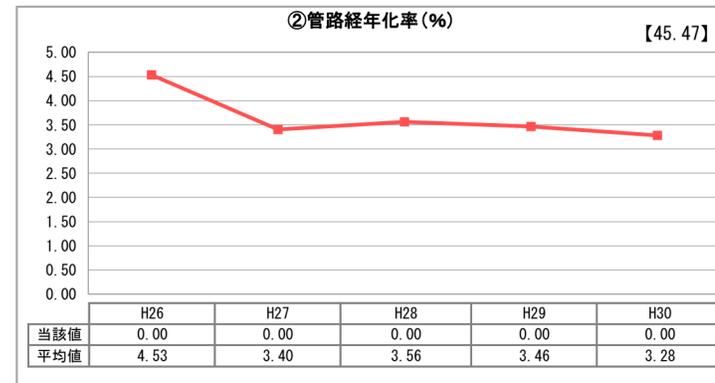
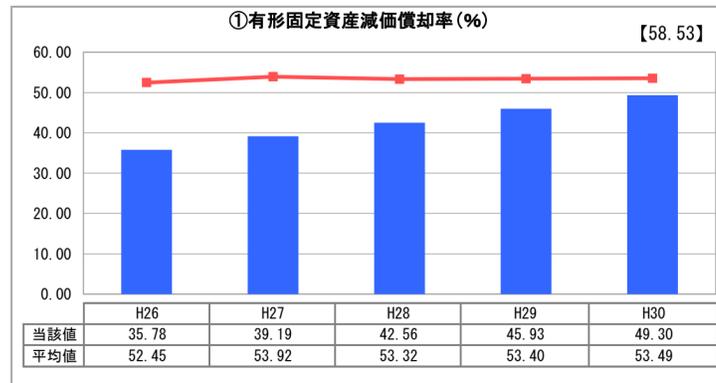
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① H28年度の大口契約企業の撤退により、経常収支比率が100%以下となったものの、今後は、新加入企業（H29～）の本稼働による給水収益の増加により経常収支比率の改善が予想される。⑤ 給水収益の減少により料金回収率が低下した。⑥ 年間総有取水量の大幅な減少により給水原価が高くなっている。⑦⑧ 施設利用率は長年低いことや契約率の低下から、施設更新時はダウンサイジングが必須である。

2. 老朽化の状況について

H4操業開始で管種もダグタイプ鉄管のため、①有形固定資産減価償却率は全国平均値等を下回っている。また同様に、管路は耐用年数を迎えていないため、②管路経年化率、③管路更新率とも0%となっている。今後は、施設の大規模更新時期を迎えることが予想されるが、計画的に実施し、費用負担の平準化を計らなくてはならない。

全体総括

比較的新しい事業であるため、管路等耐用年数に達していないものの、現状の経営状況では更新投資等に於ける財源の確保も厳しいと思われる為、今後の企業動向を注視しながら需要量を精査し、積極的なダウンサイジングの実施は行わなくてはならない。また河内川ダム完成に合わせた取水計画についても、料金回収も低い中、施設投資の時期を検討し直す必要がある。